

(研究部門)

主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合うことができる子どもの育成

—文学的文章の指導を通して—

大阪市立梅香小学校 研究部

## 1. 研究主題設定の理由

本校では『未来を切りひらく心豊かな子どもを育てる』を学校の教育目標に掲げ、心身ともに健全な子どもの育成をめざして日々の教育活動を進めている。上記の目標を達成するために、「違いを認め合いともに生きる子」「自ら学び考える子」「すこやかな体をつくる子」をめざす子ども像とし、児童が基礎基本を身に付け、もてる力をさらに伸ばしていけるよう、さまざまな教育活動の実践に取り組んでいる。

本校の児童は素直で、各学年とも係や当番、委員会などの活動に前向きに責任感を持って取り組むことができている。しかし、学力の面においては支援を必要とする児童が多く、経年調査の結果も常に市の平均を下回っている現状がある。児童の基礎・基本の力を高めるために、令和2年度からは算数科、令和4年度より国語科を研究教科とし、昨年度からは「主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合うことができる子どもの育成」を研究主題にして、文学的文章の指導を中心に読み取る力、考えを書く力、伝える力を高めるために研究を進めてきた。

## 2. 研究の趣旨

昨年度末の児童アンケートの結果、「国語の学習は分かる。」の設問に対して9割を超える児童が肯定的な回答をしている。しかし一方で、児童の学力面での目安となる経年調査では、国語科に関してどの学年においても、大阪市の平均より10ポイント前後下回っている。領域別にみると、特に「書くこと」が大幅に下回っており、「読むこと」についてもかなり下回っている現状である。このことから、教科書教材を使った国語の授業内容については、児童の多くが「分かった」と充足感を持つことができているが、初見の文章の内容を読み取ったり、趣旨に合った文章を書いたりする力として生かせていないことが分かる。初見の文章を読んで内容を理解する力は、すべての教科の学習の根幹となる力である。こうした「生きた読解力」を育てることが本校児童にとっての大きな課題である。そこで、文学的文章の指導を通して、児童が読むことの楽しさを味わい、様々な言語活動に主体的に取り組み、幅広い読書活動へとつなぐことができるよう研究を進めている。

## 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 身につけたい力を明確にし、教材分析を行う。

- 学年の系統を整理しながら、文学的文章の指導における身につけたい力を明確にする。
- この教材文で気づかせたい語句や表現、育みたい読みの力は何なのかを指導者が教材文分析を行う。

→研究推進委員には教材文を事前に配布し、研究推進委員会場でそれぞれの委員が分析したことをもとに、学習計画について助言し合うようにする。

視点② 児童が主体的に学習に取り組むことができる指導の手立てを工夫する。

- 見通しをもって学習に取り組むことができる単元構成の工夫を行う。
  - ・『Ⅰ次 つかむ → Ⅱ次 広げ・深める → Ⅲ次 いかす』を単元構成の基本として、児童が単元の最後まで主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- 交流活動を充実させるための工夫を行う。
  - ・1 単位時間の中に必ず交流の場を設定する。
  - ・交流のもととなる自分の思いや考えを、すべての児童が持つことができる手立てを工夫する。
  - ・交流活動を進めるために必要な手立てを工夫する。
- 振り返り活動を工夫する。
  - ・「振り返り」の場を設定し、今日の学習で学んだ内容を具体的に確認したり、新たな気づきについて述べたりする活動を行う。
- いかす場として言語活動を工夫する。
  - ・児童が単元の最後まで主体的に学習に取り組むことができるように、児童にとって興味のもてる言語活動を設定する。

視点③ 言葉の力を培うための日常的な取り組みを充実させる。

- 言葉の力を培うための日常的な指導の充実を図っていくようにする。  
(音読、視写、スピーチ活動、読書活動、読み聞かせ、短作文、日記 など)

#### 4. 研究の成果と今後の課題

##### (1) 研究の成果

- 各学年の発達段階に応じた言葉の力を一覧にすることで、文学的文章教材における指導の系統性が明確になり、学習指導に役立てることができた。
- 2年続けて同一教材を取り上げたことで、教員全員が教材文についての理解を深めることができた。
- 交流活動を支える工夫として、自分の思いや考えを持ち、伝え合うことができるようにするために、どの学年も次のような工夫を行った。
  - ・学習の流れを振り返ることができる掲示物を作成する
  - ・自分の考えのよりどころとなる文や言葉を見つけるための読解活動を丁寧に行う。
  - ・ワークシートや ICT 教材、お面などの学習指導材を工夫する。
  - ・学習に苦手意識をもつ児童への支援の仕方を工夫する。このような工夫を重ねてきた結果、一人一人の児童が自らの思いや考えをもつことができ、それを伝えようとする意欲につながった。

##### (2) 今後の課題

- 文学的文章の読みを広げ深めるために、指導者一人一人の教材分析力と授業をデザインする力をさらに高めていく必要がある。
- 学習の振り返りの時間を確保するために、その時間に重きをおくことは何かを整理し、45 分間の学習活動を精選していく必要がある。
- 学校全体として、さらに児童の実態を分析し、言葉の力を高めるための取り組みについての実践を続けていく。